

会場からの意見を集約し8つにカテゴライズ。登壇者が語った。

1 コミュニティの悩み

村井) コミュニティの悩みで一番大きいものは、やはり人間関係です。合わない人と同じ集団の中で何かをしなければならぬ時、どのように関わっていくかが重要だと思っています。嫌いな同士で良いけど、目的のために協力してほしい。そうやって感情を切り離せるグループに成長して欲しいなあと思います。

谷) 今の日本では、コミュニティ=仲良しとらえる風潮がありますが、実はそれはとても危険。仲良しになると空気を読んで言いたいことが言えないし、外側は敵なので排除する。中も外も腐っていく最悪の関係になってしまいます。だからこそ、村井さんの言う“嫌いな同士で良いから仲良くしよう”というのはとても大事な話です。

2 コミュニティの楽しさ、居心地の良さ

川上) ある1つの部分は共通しているけど、それ以外はバラバラってところ。違う趣味を持った人達が自分の趣味を活かしながら、各々がコミュニティに提供しあって1つのものを練り上げるっていうのが面白いなあって私は思っています。

谷) バラバラなのは問題だと思われがちですが、コミュニティの魅力でもあります。マーク・グラノヴェッターという人が“弱い絆”という言葉でこの重要性を語っています。お互いに深い関係性の中ではそこから広まらず、あまり知らない人が実はすごい趣味があったりする時の方が新しい価値観を見だしていくよっていう話。目的は一緒だけどそれ以外はバラバラっていう人が集まると、自分の知らない情報が入って来やすくなりますよね。コミュニティのすごく大きな魅力だと思います。

3 社会の中でのコミュニティの価値

谷) 社会とその集団との関係をどう思うか、そして集団の外側の社会と関わることで、自分の価値観がどのように変わったかという大きく分けて2つのお話ですが、いかがでしょうか。

中山) 社会的価値から言うと、私の所属する団体は基本的にひきこもりとかニートみたいな人が対象なので、もともと他のコミュニティに所属していない人が多いです。1人で豊かに生きていくのは難しい場合が多いので、そういったリスクを減らしていくこと、1人ひとりのリスクを減らしていくことが、ひきこもりの社会的リスクを減らすことに繋がるのではと思っています。

谷) 1人で生きていくリスクを減らしていくため、つまり組織のミッションとしてはそういう役割を果たして、個人としては人間関係の広がりというのを得ているということですね。ありがとうございます。

4 良い価値を持つコミュニティとそうじゃないものの違い

村井) 自分とは全く違う価値観で生活してきた人と関わるがありますが、やっぱりそういう場ではお酒も出ますし、その人達の武勇伝を聞かされるわけです。僕はお酒もあまり強くないし、ギャンブルなど良さも分かりませんが、その辺の話を自慢げに話されると、自分の知らない世界があるなあと思うこともありますが、正直しんどいですよね。

谷) コミュニティにかかるコストとリターンのバランスの話で、とても大事な話です。コストが大きい集団は基本的にあんまり良くない。得られるものが大きくても、損失が大きいかから基本的には良くないと思います。特にアルハラ(アルコールハラスメント)は、本当に危険です。毎年学生さん死んでいますからね。

僕の経験でいうと、話し合える集団は何とかなると思います。問題は話し合えない集団。何か意見を言おうとするとすぐに批判されたり、派閥に分かれてしまうような集団だと気軽に意見も言えないじゃないですか。話せる関係っていうのは最低限必要です。

5 コミュニティに所属する第一歩をどう踏み出すのか

谷) 私の場合は「欲」です。リア充になりたかった。欲がなければ、踏み出す勇気もなかったかもしれないです。踏み出すのはやっぱりコストがかかる話なので、コストを覚悟してでもやりたいものがあるかどうか。これは意志の問題だと思います。欲求というのは、自分の中から湧いてくるものではなくて、周りから与えられた情報によって湧くんです。僕の場合、リア充になったら楽しいなっていうリア充像があったから、それに向けて頑張れただけで、そういう像がなければそもそも第一歩を踏み出そうということもなかったかもしれません。そういう意味では、素敵な未来像を持っておくのはとっても大事なことです。こうりたい、これは嫌だみたいなことは、なるべく情報として取っておく方がいいです。

6 コミュニティに所属するための能力の身に付け方

中山) コミュニティに属するために力をつけなきゃいけないコミュニティってあんまり良くないんじゃないかなって。うちはどちらかというとコミュニティの苦手な人が多いですし、必ずしもコミュニケーション能力がなきゃいけないってことはないんじゃないかなという風に思います。

後藤) コミュニケーション能力は必要だと思われがちですし、ある程度あればコミュニティを円滑に進めていくことが出来ると思います。でも、なくてもやっていけますし、なくても所属できるコミュニティがあると思うんですね。所属するコミュニティによって、本当に求められるものが変わってくるんです。

谷) 多分能力が高ければ高いほど、行けるコミュニティは多いです。なので、コミュニケーション能力は持っている方が得です。でも、なくても入れるコミュニティがあるならそれが良いに決まっていますよね。入る時に高いハードルがあるのではなく、入ることで段々変化していく、成長していく、そういう人を育てられるコミュニティが強いと思います。

7 コミュニティを継続するにはどうしたらいいのか。その条件とは。

中山) 頻度だけでも自分の無理のないペースで行くとか、やることの負担を下げるとか、そういうことかなと思います。あとはモチベーション。そこで何をしたら自分は楽しめるのか、何をもらえるのかという。そういうことがわかっていての方が行きやすいかなと。

川上) 「何してもいい」って言われたら逆に何をしたらいいのかわからないということがあって、具体的な役割を自分から見つけていたり、コミュニティに来てくれる人に対して役割を与えてあげたりすることが大事だと思います。また、私がコミュニティに通うきっかけになったのが、コミュニティに対して家族の代わりにするような場所を見つけたと感じたことです。家族とのコミュニティの代わりにそこでコミュニティを作るということが通う理由になったので、役割や理由を与えてあげることが大切なのかなと思います。

担当 南青少年活動センター 清水方人
東山青少年活動センター 松本梨沙
ボランティア 寺口紗代